

## 援助の道具として「視点」を使いこなすための演習

—限られた時間で事例検討・支援計画を学ぶために—

○ 武蔵野大学通信教育部 前廣 美保（会員番号 8308）

本多 勇（武蔵野大学通信教育部・会員番号 3472）

キーワード：社会人学生 演習 ソーシャルワークの視点

### 1. 研究目的

本学の通信教育部で社会福祉を学ぶ学生は、現場での相談援助経験者が半数以上を占めている。現場実践を含めた社会経験の豊かさは、事例検討に幅広い視点を加えることを可能とし、演習では実習経験者と実務経験者が相互の体験を共有することができる。

その一方で、過去の援助実践をもとに社会福祉の概念や技術を学ぶことで、すでに持っている個別の価値観や思考の枠組みにとらわれやすくなり、新たに専門的な価値観や理解の枠組みを構築することが難しい側面もある。さらに、スクーリングでの演習時間が限られている現状の中で、効果的に専門食としての理解をいかに深められるかを、試行錯誤している。

本研究では、実習も含めた総まとめとして12月に開講される「社会福祉演習3」のスクーリングの内容を検討し、限られた時間で学生がソーシャルワーク援助技術を滋養して、使える技術として身につけるための演習で何が必要とされるのかを考察する。

### 2. 研究の視点および方法

昨年度のスクーリングで、学生がグループワークに使用した模造紙と付箋紙に書かれた言葉を整理・分析し、使われている言葉の傾向から、どのようなソーシャルワークの視点が入り入れられているのかを考察する。

同時に、事例検討と支援計画の作成過程においてアセスメントツールとして使われるジェノグラム、エコマップの効果的な活用方法についての検討も行う。

### 3. 倫理的配慮

グループワークの作業に使用した模造紙と付箋紙のみを分析の対象としており、書かれた内容からは、学生の個人情報は一切特定できない。授業の終了後に、この模造紙と付箋紙を回収した際、学生には「教員が研究に使う」旨を周知している。なお、学生が課題として取り組んだ事例は、田中、中野（2013）の事例集から選んで用いた。

#### 4. 研究結果

演習では、教員が準備した事例を用いて、はじめに「個人的な価値観・視点」を意識して話し合い、アセスメントを行いながら「専門的な価値観・視点」への転換を図り、最終的には支援計画を立てることを目指した。学生の作成した模造紙では以下の特徴が見られた。

- ① 「個人的な価値観や視点」と「専門的な価値観や視点」の違いを明確にしにくい。
- ② ジェノグラム、エコマップなどを用いて事例を視覚化する技術が未成熟である。
- ③ 専門的な価値観や視点を持っていても、それらを明確な言葉で表現することに慣れていない、または専門的な記述やアプローチを選ぶことに不安やためらいがある。
- ④ 援助経過を時間軸で検討し見立てることを忘れがちである。

上記を総括すると、学生は現場の実践や実習を通して、ソーシャルワークの体験や視点は十分に持っていても、それらを表現する専門用語と結びつけることに自信が持てない傾向があることが読み取れる。

#### 5. 考察

実際の援助の現場では、ひとつの事例を検討して支援計画を立てるための時間は必ずしも十分ではない。それでも、限られた時間内でクライアントに最善の計画を立てるために適切な判断が求められる。そこで、援助者は自身が持っている「視点」を高性能デジタルカメラのように自由自在に使いこなすことが必要となる。

そのために演習で必要となるものは何か。ひとつめは、アセスメントツールを使いこなすことである。事例を視覚化することで、思考の外在化とチームでの共有が可能となる。ふたつ目は、事例に対して、個人的なものも含めて多様な見方があることを理解することである。みつつ目に、学生が自らの「視点」にはどのような援助の意図があるのかを明確にすることである。

グループワークでは、学生が自由に日常語で事例や援助について話し合いをした後に、同じ内容を専門的な用語で表現することができれば良い。何気ない行為に名前がつくことで焦点が絞られ「専門的な視点」となる。日頃の実践が専門的な援助技術で表現できると気づくとともに、チームで技術を共有することもできる。

そのためには、学生の視点が曖昧な場合には教員が適宜フィードバックを行い、ヒントを示して、どこに焦点をあてるのかをアドバイスすることも必要である。学生が議論をつくして、多様な視点を体験した後、そのうちのいくつかに焦点をあてて、具体的な援助の流れを見立てることができると学びが深められる。限られた演習時間内で効果的にソーシャルワーク技法を身につけるためには「視点の明確化」が特に大切だと考えられる。

<参考文献> 田中英樹、中野伸彦編集、『ソーシャルワーク演習のための88事例 実践につなぐ理論と技法を学ぶ』中央法規出版、2013年